

SHO KAN KYO

ショウカンキョウ

1

Gensler

2

JCD DESIGN AWARD 2013

3

JCD Product of the Year 2013

4

East Gathering Tokyo 2013

5

kisaki shoest

6

Information

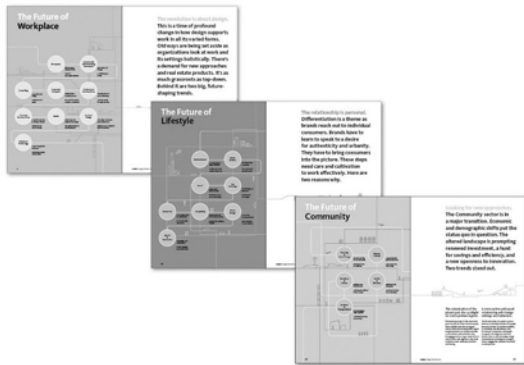
81

Gensler

グローバル企業のパートナーとして成長する、グローバルデザインコンサルティング会社。世界最大級の規模と実績で、建築設計・インテリア・都市計画など総合的なデザイン業務をグローバル展開しているゲンスラー。その独自の経営方針や企業文化、デザイン業務内容について、日本ではあまり知られていない。日本における代表者の山本那智子氏、プロジェクトディレクターの河添由己子氏、デザインディレクターの金子千夏氏の3名に、東京オフィスの活動を中心に聞いた。



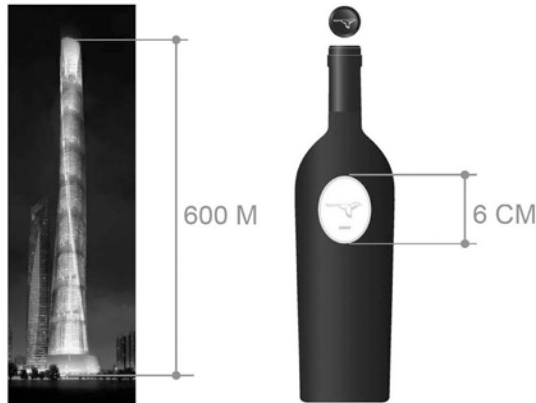
Interviewer — Tutomu Osuga
インタビュー大野 力
主に建築・インテリア系の編集者。月刊「建築雑誌」、季刊「IA」（現在休刊）などの編集長を務めた。現在、フリー。



GENSLER/PIB DESIGN FORECAST

デザイン対象は6cmから600mまで

-ゲンスラーはオフィスデザインの分野でよく知られていますね
山本 アメリカでは1965年の不況時に、建築の仕事が大きく減りました。そのとき創設者アート・ゲンスラーはオフィスインテリア設計に注目し、コーポレートデザインという領域を確立し、ゲンスラーはその分野のハイオビオとなりました。アメリカのインテリアデザイン誌によるトップ100デザイン会社ランキングで、昨年まで34年間連続で売り上げ1位を保ち続けています。
-ゲンスラーはグローバル展開をしていることも知られています
河添 現在は世界の46都市にオフィスがあり、社員は4千人を超えました。それぞれのオフィスには地域性を反映した個性がありますが、同時にゲンスラー文化は必ず継承されています。
-46都市のオフィスはどのような関係なのでしょう
山本 ゲンスラーは「One-firm firm」（「一つの企業」として結束した企業）を企業理念としていますので、所在地を超えて、情報・人員リソースの共有を図っています。それをサポートするイントラネットや、プロジェクト状況を把握するアプリが充実しており、この基盤で全員が繋がっています。こうしたプロセス、企業文化を徹底することで、グローバルで一貫したデザイン価値を提供できると考えています。



-各オフィス間の情報交換はどのようにしていますか
山本 毎週、毎月、様々な電話会議やカンファレンス、ビデオプレゼンテーションを通して、世界各地でどのようなプロジェクトが動いているのか、グローバル企業の動き方や成長、プロジェクト最新情報、デザイントレンド、リサーチ結果などを共有します。またプロジェクトによっては担当者が都市、地域、国をまたいで業務を提供しますので、そうした場合には現地事務所との連携が鍵となります。このように、世界中のゲンスラー拠点と情報交換することで、ほかの国や地域でのビジネスの動向を早期にすくいあげることが可能になり、クライアントに適切且つ迅速なアドバイスを提供できます。
-では地域の異なるオフィス同士で、コンペなどを競い合うことはあるのでしょうか
山本 時折、競合他社設計事務所が支社同士同じコンペでぶつかる話を耳にしますが、我々の場合、先ほど申しましたように事前に情報を共有しているで、そうしたことはありません。あくまで「One-firm firm」です。
-仕事の範囲が広いのもゲンスラーの特徴ではないでしょうか
山本 ログデザインのような小さなものから上海タワーのような巨大施設までを手がけています。よく我々は「6cmから600mまで」デザインしますと説明します。対象プロジェクトの用途が広いのも特徴です。オフィスやホテル、店舗、ショッピングセンターといった身近なものから、都市計画、高層ビル、駅、飛行場、データセンター、ヘルスケア施設などコミュニティに深く係るものまで手

がけています。
-クライアントの傾向について教えてください
山本 やはり、ゲンスラーは外資系企業なので、外資系のクライアントが多いです。現在のクライアント数は2千500社に上ります。リピータークライアントが多いのも特徴で、75%以上になります。
-アジアでの展開について教えてください
河添 アジア地域は調順な成長を続けており、現在6カ国、9拠点、430名の社員がいるリージョンになりました。アジアのなかで東京が一番最初に進出したオフィスで、昨年で設立20周年を迎えました。現在、東京オフィスは60名です。そのうち殆どのスタッフが海外生活経験のあるバイリンガルで、15人の一級建築士、14人のLEED認定者が含まれています。

オフィスデザインをビジネスにつなげる

-日本のオフィスデザインは、かつては事務機器メーカーが市場を独占していました。それに一石を投じたのがゲンスラーだと思いませんか
山本 我々はワークプレイスデザインのハイオビオとして、常に競合デザイン会社の何歩か先を歩んでいないといけないと思っています。
-特に強みを発揮している分野はありますか
山本 最近ワークプレイスコンサルティングが伸びてきていま



GENSLER東京オフィス

す。
-最近ではQVCジャパンの本社屋が話題になりました
河添 「日経ニューオフィス賞」の経済産業大臣賞のほか、いくつもの大きな賞を受賞しましたが、オフィスデザインが、リクルートに貢献している事例だと思います。
-オフィスデザインがブランディングと結びついているのですね
河添 その通りです。ブランドというのは、商品やサービスがユーザーに与える影響力であったり、信頼関係だと考えています。オフィス空間といえば、「この企業にどんな人材を集めたいか」というところからデザインを考えます。単に空間をつくるだけでなく、トータルビジネスとしてクライアントを支えるのが我々の特徴であり、役目だと思っています。
-オフィスデザインのプロセスについて教えてください
河添 最初のヒアリングやアンケート調査に時間をかけます。場合によっては、ワークショップを行うこともあります。こうした各種の調査によって、クライアントのニーズを探り出すところからスタートするのです。
-クライアント企業のトップが社員のニーズを正確に捉えられていないこともあるのではないのでしょうか
河添 トップと現場のスタッフで考え方が違うことはよくあります。そうしたことを空間デザインに入る前に明らかにして、調整する必要があります。このようなプロセスを経ないでレイアウトや色、素材を決めても意味がありません。



伊藤ヒロドフォーラム Photo/S.S. Nagoya



MAX BRENNER CHOCOLATE BAR 東京都港区六本木5丁目 Photo/Satoshi Matsuo



GVCスクエア Photo/Nacasa & Partners

顧客のニーズを引き出し、共有する前にデザインをするのは無駄なことでしょうか

山本 そう思います。オフィスデザインはビジネスの発展につながらないと意味がありません。オフィスを刷新したり、新設することで生産性が向上したり、人材採用の質が高まるのが大切です。つまりコンサルティングの力がクライアントに評価されているのです

山本 そのように努めています。コンサルティングという意味では、LEED (Leadership in Energy & Environmental Design) の認証にも力を入れています。これは環境に配慮したサステイナブルな建物を認証するアメリカの制度ですが、求められる水準が非常に高いことで有名です。そのぶん認証を得た建物やそれを所有する企業は評価されます。グローバル展開する企業にはLEEDを推進する企業が多いです。

グローバルな店舗展開を支える

・オフィス以外に店舗デザインを多く手がけていますね

金子 大きくプロジェクトタイプは2つに分かれます。1つは海外企業の日本展開のお手伝いで、もう1つが日本企業の海外展開のお手伝いです。前者でいうと、最近ではアメリカのアズスクリーム屋さんのベン&ジェリーズやイスタエルのチョコレート屋さんのマックスプレナーの店舗デザインを手掛け

ています。

・マックスプレナーの東京表参道ヒルズのお店は行列で話題になりましたね。店舗デザインのプロジェクではどんなことを大切にしていますか

金子 店舗デザインの仕事は、ブランドのデザイン標準をどう表現するにかかっています。たとえばマックスプレナーは「チョコレートファクトリー」がコンセプトです。そこで工場を連想させるフェイクの配管を回したり、チョコレートを混ぜる道具で壁面にパターンをつくりたりしています。全体としては、ロマンチックで女子っぽいデザインにまとめています。ちなみに彼ら独自のユニークな壁面のパターンは、世界中のお店に展開されています。

・店舗デザインの仕事の特徴はどんなところにありますか

金子 各ブランドの世界観を保ちつつ、地域にあわせてサービスやデザインの表現を微調整をすることが最も難しく、またやり甲斐のある部分かと思っています。ニューヨークにはニューヨークの、上海には上海の地域性がある。もちろん東京にも独自の地域性があります。

東京の消費者は目が肥えていて洗練されていると同時に飽きっぽいので、通常のブランドスタンダードデザインに加えた工夫や配慮が必要になる場合が多いです。

・店舗デザインのプロジェクでは参加するプレイヤーも独特です

金子 店舗デザインのプロジェクは期間も短く、スピード感が重要。そのプロセスが楽しく、最後までエキサイティングです。マックスプレナーのプロジェクは、オペレーターがトランジ

ト社ですが、彼らとのコラボレーションもとても勉強になりました。

・日本企業の海外展開サポートという点では、一般的にどのような業務が発生しますか

山本 まず海外と日本では設計プロセスから、工事段階まであらゆる面で環境が違います。日本の請負ゼネコンであれば、なにがなんでも工期を守ってくれますが、海外ではそれほど厳密に工期に合わせる習慣はありません。そうした実状を踏まえた上でプロジェクトスケジュールを立てなければいけません。また、省エネルギーの規制も地域、国で異なります。それに適合させるには空調計画や照明計画の見直しが必要になる場合もあります。

・グローバル展開には、現地事情に通じたスタッフが必要なのですか

山本 そうなんです。それがグローバル展開している我々の強みだと思います。

・高業施設プロジェクトに関して、東京オフィスの課題はなんですか

山本 最近、コンビニで大きなショッピングモールの仕事を取りました。今後、ブランドや環境デザインと一体化した商業施設作りをしていきたいと思っています。

施主との関係を重視

・東京オフィスの組織について教えてください



伊藤ヒロドフォーラム Photo/S.S. Nagoya

山本 東京オフィスは2つのスタジオ「ワークプレイス」と「ライフスタイル」があります。それぞれにリーダーがいますが、ピラミッド型の組織とはまったく異なり、上司・部下という概念がありません。フラットでオープンな組織です。

・スタジオ制というのは珍しいですね

山本 これもゲンスラーの特徴です。

ゲンスラーが設立してから15年ほど経った時に、経営コンサルタントの提案で導入されました。1つのスタジオの人数は30人前後、目が行き届く規模です。またスタジオ制には昇進の機会を増やすという目的もあります。スタジオを運営し成果を出せば、経営に参画していくこととなります。

・ゲンスラーが求める人材について教えてください

山本 何となくもゲンスラー文化にフィットすることです。デザインの才能、コミュニケーション力、チーム力、リーダーシップがある人が望ましいです。

・新入社員教育の仕組みを教えてください

山本 最近、コンビニで大きなショッピングモールの仕事を取りました。今後、ブランドや環境デザインと一体化した商業施設作りをしていきたいと思っています。

・デザイン業界は中途採用が多いですが、ゲンスラーはいかがでしょう

山本 中途採用がほとんどです。勿論インターンシップ制度もあり、それを経て採用したスタッフもいます。・新入社員教育の仕組みを教えてください

河添 新入社員に対しては「メンター」をつけます。

メンターとは、お手本になる人、なんでも問ける人という存在です。人はメンターを通じてゲンスラー文化、仕事のイロハを学

んでいきます。

・東京オフィスは女性のスタッフが多いですね

河添 約半数が女性です。能力のある人間にとっては、男女問わず働きやすい会社だと思います。女性が活躍していることが評価されて、オフィスデザインの仕事を依頼されたこともあります。東京オフィスだけでなく、ゲンスラー全体でも約半数が女性です。

・最後の質問です。ゲンスラー独特の業態をあえて定義するとどうなるでしょう

山本 業態の幅が広いので一言では難しいですね。強いえば、「デザインコンサルティング」ではないでしょうか。

(後記)さまざまな質問に気軽に回答いただき、なごやかな雰囲気を取りました。

3人とも日本人にありがちな留保を一切付けずに、自分の考え方をはっきりと述べるのが印象的だった。これがグローバル企業におけるコミュニケーションのあり方なのだろう。空間の斬新性ではなくクライアント企業のビジネスに寄り添うことをゴールとする、ゲンスラーの哲学が明確に伝わってきた。



GVCスクエア Photo/NacasaPartners



左から河添氏、山本氏、金子氏

山本 勝子(やまもと なちこ)
マニファクチャリングディレクター
日本における代表
都立大学工学部建築学科卒業
Pratt Institute 建築学部修士課程
米国ニューヨーク州建築師
一般建築士
USBBG認定 LEED評価員

河添 由巳子(かわそえ ゆきこ)
プロジェクトディレクター
Academy of Art College インテリアデザイン学科卒業
一般建築士
USBBG認定 LEED評価員

金子 千夏(かねこ ちなつ)
デザインディレクター
Colgate University 美術系美術史学科卒業
School of the Art Institute of Chicago
インテリアデザイン学科卒業
米国NCID認定インテリアデザイナー
USBBG認定 LEED評価員



JCD International design award 2012 大賞 作品名「まちの保育園」東京麹町地区 設計者宇野浩介建築設計事務所 宇野浩介

1_ショップ空間

2_食空間

3_大規模高空間

4_サービス・エンターテインメント空間

5_文化・公共コミュニケーション空間

6_公共生活空間

第1次審査 審査員：阿部秀夫、岩佐達雄、内山啓子、桂蔵祐史仁、小田秀輝、菅原美紀、柳川眞二、笠原英樹、金子洋伸、齋藤久美子、窪田茂、小倉誠、平島支那、高村裕之、渡石正樹、大藤清、長町志穂、中村真之介、中村茂雄、森藤剛、長谷川謙、平井充、深田謙哉、文田由仁、村松基安、高瀬野也

第2次公開審査 審査員：浅子佳英、飯島直樹、中、塚川誠、小坂竜、柴田陽子、橋本夕紀夫、吉村晴孝（※審査員長）

JCDデザインアワード2013 審査総評

日本のショッピングビルは今、実は困っている。モノを扱う＝ショッピングの社会背景は流通革命を謳歌した20世紀末の後、激変していった。その後のIT革命、金融革命、グローバル化に翻弄される中で、ショッピングの場も脱皮しようとしているのだが、郊外化という社会の変化や中心市街地の空洞化というネジレに即答出来ずに困っているのだ。

このJCDデザインアワードは、高環境領域の視野を押し広げて、デザインだけでなくその時代の社会背景も鑑定してきた。しかし先鋭的ファッションショップや、濃厚なレストラスタイルの隆盛時に比べ、ショッピングビル（SC、モール、百貨店、専門店）が實に露呈することはほとんど無かった。ショッピングビルの形式がステレオタイプに自閉し、デザイン面での刷新に欠けたのである。

ゼロ年代以降こうした停滞の隙間で、資本主義社会の変化に敏感な反応があらわれた。たとえばAMO+レム・コールハースが先導するハーバード大学の研究グループは、世界のショッピングの場をリアルに抽出した(The Harvard Design School Guide to Shopping(2002))。あるいは批評家東浩紀が編集する雑誌「思想地図」の創刊号(2011)の特集は「ショッピング/ハタチ」であった。ショッピングが都市研究や批評のテーマとなったのである。近年は実際のショッピングの現場でも実験的な試みが散見されるようになる(鹿島島の百貨店マルヤガーデンズなど)。時代の趨勢あるいは社会の要請が、ショッピングという環境のベタな現場を引っ張り出しているのかもしれない。

2013年のJCDデザインアワードはそんな感想が具現化したかのようだった。例えば金賞の「NEWLAND」。郊外を席巻するショッピングモールと一線を画し、土地に根ざした風景(工場のような重機置き場)にショッピングを放り込み、地域そのものをリノベーションする。郊外の郊外のための空間＝もう一つのショッピング空間の試みだ。

同じく金賞となった「インターメディアテック」は都心の最新ショッピングビル「KITTE」の中の「学術文化総合ミュージアム」である。かつて美術館を付帯させる百貨店があったが、これは常設の博物館でしかも無料。しかもショッピングビルの巨大な中庭を占有する。この利潤を生まない博物館的な空白空間の出現は、しかしアイコンではない。モノを売らない余白がシンボルとなる極めて興味深いショッピングビルタイプ＝メディアテックを生成したのである。

そして大賞の「東急プラザ」。一般的なショッピングのビルディングタイプを支配するのは最大容積の獲得とフロア毎に序列化される資料の構造である。ましてや表参道の超一等地である。デザインはその条件に答えなければならない。「東急プラザ」はそうした商業の資本主義的要素を全身で引き受けつつ、まるでパルダサーのように跳躍した。上層階からの第二のエンタランス。中空の森。資料の脱構築。ヒトの身体に根ざしたアフォーダンスの着想によって軽やかに資本主義構造のビルを反転させた。新たな社会のコンデンサーとして商業建築を提示したのである。2013年、鮮やかな大賞作として、記憶されるべきデザインである。

一般社団法人 日本高環境デザイン協会理事長 飯島直樹

Grand Award

—JCD大賞—

3_大規模高空間

東急プラザ 表参道原宿

(東京都渋谷区)

NAP 建築設計事務所

中村拓志

株式会社竹中工務店

濱野裕司・伊谷峰十垣谷伸彦

撮影者：Yumi Tsushima

Hiroshi Nakamura & NAP



この東急プラザの場所は、商業にとって大変ムズカシイ土地だ。表参道原宿のど真ん中なのに、かつて原宿セントラルアパートが在った黄金期以後建設がままならず、せっかくなのでGAPをキータナントとする複合商業ビルも消え去った。一等地なのに、あるいは一等地ゆえに、高いが難しいのだ。その場所にもう一度建てなくてはならなかった東急プラザ。どれほどに収益、運営の資本主義に晒され、設計として一等地の重圧を受けたことか。しかしそんな困難を全身に浴びた商業ビルなのに、この建築はとてつもなく図太い。

中村拓志は、JCDデザインアワードのゼロ年代以降に特有な傾向を示した建築家の一人である。その傾向とは、90年代を席巻した透明な空気のような建築とは対極の「形」の呼び起こし>と。形と呼び起こしは主観的なフォルマリス

ムとも異なる。環境や与条件が形を誘発する、そんなデザインの可能性の読み(アフォーダンス)の観点に似てはいるが、ゼロ年代の若い建築家に類出したのだった。

東急プラザで言えば高質な家賃や収益性が低下する上層フロアなど、商業ビルに付きまとう建築的与条件にぶてく介入し、そこから新たなショッピングビルの型を引っ張りだした。空気感とか印象表現ははねのけ、武道家のようにリットな立ち居振る舞いをショッピングビルにもたらした。

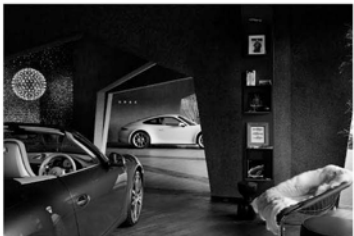
原宿のど真ん中に立ち、万華鏡のトンネルと木々を抱え込む山林を見上げる。空が青い。藤森照信ならずとも口走ってしまう。

「(野蠻)ヤパンキヤルド」

審査員長 飯島直樹

Gold+Jury Award

—JCD金賞・審査員賞—



インターメディアテックは、郵便局が建設された当時のデザインに敬意を払うかのように作られており、朽ちた床材や特徴的な柱や梁を残した空間はそれ自体大変魅力的だ。また、空調設備を片側に寄せ、給気口に配線配管された天井も見事であり、展示什器も展示物に合わせて大変丁寧に作られている。ただ、最も重要なのは古いものを活かして再生させるというこの手法が、学術標本を再生し新たな価値を生み出すというこの博物館のコンセプトと完全に一致している点だろう。さらに無料で開放している点など博物館本来の意味を問い直す意欲的な作品。

浅子佳英

賞が贈られた。建築側の評価基準が住宅と大型建築に二分しているためか、ここ数年JCDアワードはそこから離れた非住宅小規模建築や、建築家によるインテリア作品の受け皿となった。この傾向が商業空間の定義をあいまいにしてしまっている感はない。それに比べ、今年の大賞は商業の論理をデザインに昇華した稀有な事例と記憶されるべきだ。一方で、吉村賞には同様のモールドでありながら対照的に余地を残して商業空間をつくる姿勢に深い感銘を受けた。

吉村晴孝

3_大規模商業空間

1 GRAZ
(東京都世田谷区)
NAP 建築設計事務所
中村拓志
撮影者: Koji Fujii
Nacasa and Partners Inc.
～小坂電賞～

2_食空間

2 糸満漁民食堂
(沖縄県糸満市)
山崎健太郎
デザインワークショップ
山崎健太郎
撮影者: 大城直
～笈川誠賞～

6_公共生活空間

1 JPTワー学術文化総合ミュージアム インターメディアテック
(東京都千代田区丸の内)
東京大学総合研究博物館
株式会社丹野社
株式会社SIMPLICITY
撮影者: 空間・展示デザイン GUMUT works 2013
～浅子佳英賞～

3_大規模商業空間

1 NEWLAND
(埼玉県朝霞市)
株式会社デッセンス
山本和豊
～吉村晴孝賞～

Gold Award

—JCD金賞—



3_大規模商業空間

1 TAKEO KIKUCHI
渋谷明治通り本店
(東京都渋谷区)
スキーマ建築計画
長坂常
竹中工務店設計部
浪野裕司
撮影者: Nacasa&Partners Inc.

4_サービス・エンターテインメント空間

1 SUGIMOTO MITO
(茨城県水戸市)
タカラスペースデザイン株式会社
鈴木博三
撮影者: 宮本啓介

5_文化・公共コミュニケーション空間

1 佐久島の秘密基地/アポロ
(愛知県高岡市)
株式会社POINT
長岡誠十田中正洋
撮影者: 尾野謙大

6_公共生活空間

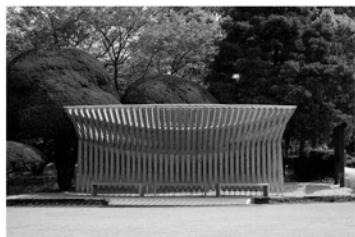
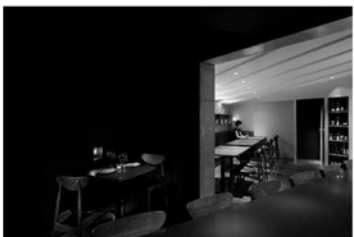
1 レイモンド向日保育園
(埼玉県朝霞市)
株式会社アーキヴィジョン
広谷スタジオ
広谷純弘十石田有作
撮影者: 幸田保

6_公共生活空間

1 こいずみ道具店
(東京都立市)
Koizumi Studio
小泉誠十平田真貴十大柴いずみ
撮影者: Nacasa&Partners Inc.

Rookie Award

—新人賞—



2_食空間

1 concerto
(東京都渋谷区)
久保都島建築設計事務所
久保秀朗十都島有美
Koji Fujii/Nacasa & Partners Inc.

4_サービス・エンターテインメント空間

1 緑野公園バス停
(高知県高岡市)
梅原佑司デザイン事務所
梅原佑司
監修: 高知工科大学 吉田研究室
吉田晋
撮影者: 北村徹

Jury Award

—審査員賞—

4_サービス・エンターテインメント空間

1 魔樹
(東京都世田谷区)
タカラスペースデザイン株式会社
浦口巖
柴田陽子賞



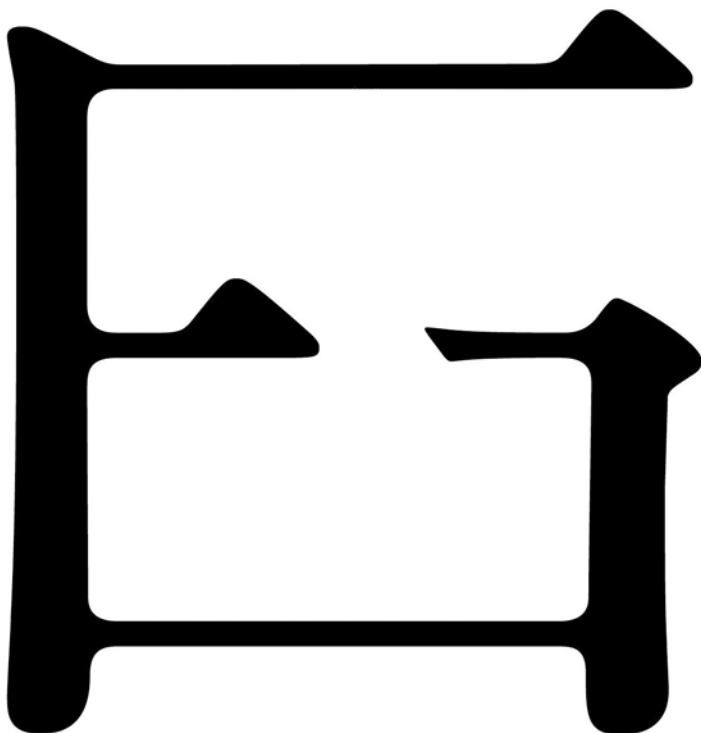
今回初めて審査員を務めて頂きましたが、空間をプロデュースする側の立場から「施主様の思いをどれだけ表現できているか」を評価ポイントとして審査致しました。受賞作品の中でも、柴田陽子賞に選定させて頂いた「魔樹」は、施主様に対する聞き取り能力が高く、また、お客様への細やかな配慮が施され、長期的なビジネスを後押しする空間に仕上がっていると感じました。施主様の立場や、実際に空間が利用されるシーンが考え尽くされた建築デザインが今後増えていくことを願っています。

柴田陽子

East Gathering

Tokyo / Seoul / Hong Kong

東アジアのインテリアデザイナー・建築家による空間デザイン会議



2013年 10月20日(日) - 27日(日)

Tokyo Midtown DESIGN HUB / 工学院大学

東アジアは、20世紀型消費社会の次のフェーズを触手する地政学的エリアであり、デザインにとっても未来を測定するヒントの格好の収蔵庫だ。East Gatheringはそんな東アジアのインテリアデザイナー・建築家たちが集合し、交流し、対話するために2010年香港からはじまった。その後東京、ソウルとミズマシのように軽やかに海を渡り、互いに3都市を行き来した。2013年、昨年の香港に続き5回目の開催は東京である。来るべき次のフェーズの空間デザインについて、商空間・建築・アーバンスケープの現場からその可能性を探った。

Tokyo Midtown
DESIGN
HUB

東アジアを結合する文化は、表意文字/漢字を共有し海上を行き来してきた。長い時間をかけてそこに築かれてきた多義的な受容性の文化は、グローバリズムの専一的な世界観を超える大きな力であり、21世紀の空間デザインの可能性を内包する収蔵庫なのではないか。こうした価値と21世紀の文化のリアリティを求めて、東アジアのデザインの集合を呼びかける発起があった。それがEast Gatheringである。香港、東京、ソウル。海上を行き来し集合し、空間デザインの現実を開示しあおうと呼びかけられた。フォーラム、シンポジウム、ワークショップ、展覧会などを共同開催する。2010年12月の香港以降、東京、ソウルを終え、すでに二巡目。昨年の香港に続き、2013年10月に東京で5回目のEast Gatheringである。開催テーマは「ショッピング・カオス」。世界の都市を作り出す要因は「都市計画」ではなく、資本主義が誘導する「ショッピング」である。ゼロ年代以降、グローバリズム・IT・金融資本主義のハードコアが牧歌的な都市の様相と異なるカオス的な都市風景を形成し始めたのだ。こうした変化に敏感な反応が現れる。たとえばAMO =レム・コールハースが先導するハーバード大学の研究グループは、世界中のショッピングの場面をリアルに提示した(The Harvard Design School Guide to Shopping 2002)。カオス的な都市風景は極めて今日的な社会学の課題であると同時に、世界の経済動向の中心となりつつあるアジアの「空間デザイン」の課題と言えるだろう。事実、空間デザインアワードの受賞作にも、こうした観点からのショッピング空間への新たな試みが散見されるようになった。今回のEast Gatheringは、香港・東京・ソウルの空間デザインから、そうした都市環境の新たな局面である「ショッピング」の諸相を呼び起こした。

1

East Gathering Presence

JCD DESIGN AWARD 2013 授賞式

28作品展+香港・ソウル招待作品展

日時—2013年10月20日—27日

会場—東京ミッドタウン ミッドタウン・タワー5F
DESIGN HUB

2

JCD DESIGN AWARD 2013

授賞式

日時—2013年10月25日

会場—東京ミッドタウン ミッドタウン・タワー5F
インターナショナル・デザイン・リエゾン
センター

3

East Gathering Reception

Try-City Gathering Party

日時—2013年10月25日

会場—東京ミッドタウン ミッドタウン・タワー5F
インターナショナル・デザイン・リエゾン
センター

4

East Gathering Forum (JCD シンポジウムSECTION 54)

3都市のそれぞれの、ショッピング空間とデザインを語る。

日時—2013年10月26日

会場—工学院大学(B-0663教室)

Moderator—荻川誠(BAMBOO MEDIA)

5

East Gathering Seminar (JCDシンポジウムSECTION 55)

ショッピングをめぐる3都市からの報告とトークセッション

日時—2013年10月27日

会場—東京ミッドタウン ミッドタウン・タワー5F

インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

Moderator—浅子佳英



Tokyo Midtown DESIGN HUB

工学院大学

DESIGN HUB 〒107-6205 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F 工学院大学 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2

[主催] JCD一般社団法人日本商環境デザイン協会 [共催] HKIDA香港インテリアデザイン協会 / East Gathering ソウル実行委員会 / 公益財団法人日本デザイン振興会 / 学校法人工学院大学

JCD一般社団法人日本商環境デザイン協会事務局 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-6外神田会館 TEL 03-5207-6707 FAX 03-5207-6708 <http://www.jcd.or.jp>

[協賛企業] DNライティング株式会社 / HANS BOODT. MANNEQUINS / 株式会社遠藤照明 / 株式会社サカイ / 株式会社スペース / 株式会社店研創庫 / TOTO株式会社 / むし株式会社

2013/10/26/14:00-16:30 @ 工学院大学新宿 B-0663 教室
East Gathering Forum (JCD シンポジウム SECTION 54)
「3都市のそれぞれの、ショッピング空間とデザインを語る」



木谷ひろし / インテリアデザイナー
2002年、岩崎製、硝子由美と共にデザイン事務所「トネリコ」を設立。建築、インテリアから家具、プロダクトに至るまで多岐にわたり活動。SalonSatellit(2006) 最優秀賞。
2012 JCD デザインアワード (女子体長賞) など受賞歴多数。多摩美術大学非常勤教授。
<http://www.tonerico-ino.com>



Alex Lee & Virginia Long / インテリアデザイナー
香港をベースとした活動するデザインユニット (One Plus Partnership) を2004年に設立。
先駆的で革新的なビジョンにより、インテリアデザインに新しい流れをもたらしている。
アメリカ、ドイツ、イタリア、イギリス、日本、台湾において、多数のデザインアワードを受賞。
2012年 Andrew Martin International Interior Designer of the Year Award に選ばれる。
2012 JCD デザインアワード (海外最優秀賞) 受賞。
<http://www.onepluspartnership.com>



KEN WATANABE 渡辺 謙 / デザイナー
ミラノのムンクデザインを卒業。ゾウの「ゼロ年代」を体験するデザインユニット「MUMU」を結成。
[Soft-shoes] [Tea-see] [Sharing watch] など、人とモノの間のコミュニケーションに思考を注ぎ続ける
ユニークなデザイナーである。空間、文、家具、プロダクトなどジャンルを超えた活動を行う。
2012 IF Design Award (ドイツ)、2013 JCD デザインアワード 銅賞など多数受賞。
<http://www.mumu.com>



モデレーター 奥川 誠 Makoto Oikawa
メディアプロデューサー / BAMBOO MEDIA 代表
1997年東京生まれ。専ら「モノ」の消費デザインの世界。月刊『月刊建築』の編集、10年より10日誌編集長。
10年設立し、(株)BAMBOO MEDIA 設立。建築デザイン web magazine 『BAMBOO MEDIA』。建築空間ファクトリーの研究会 『BAMBOO EXPLO』。同社メール 『BAMBOO MAIL』等を主宰。webメディアを軸にした企画、運営、制作、プロモーション事業などのほか、講演・執筆なども手掛ける。
<http://bamboo-media.jp>

2013/10/27/13:00-15:30 @ 六本木ミッドタウン 5階リゾンセンター
East Gathering Seminar (JCD シンポジウム SECTION 55)
「ショッピングをめぐる3都市からの報告とトークセッション」



中村 研志 Kenji Nakano / 建築家
1974年東京に生まれる。明治大学大学院博士前期課程修了後、隈研吾建築都市設計事務所入社。
2002年 AMF 建築設計事務所設立。ゼロ年代以降の日本の空間デザインを牽引する。
主な作品に [Dancing trees, Singing birds] (Lotus Beauty Salon/2009 JCD デザインアワード大賞)
[東京アジア建築展2010] (2013 JCD デザインアワード大賞)
<http://www.nakano.info>



Seiki Mori / インテリアデザイナー
1968年大阪に生まれる。多摩美術大学卒業後、東京大学理学部メーカーにてプロダクト及び照明デザインに携わる。
その後イギリスにて建築学を専攻。2000年より香港・上海をベースに活動。Studio ABBT 設立。
2010年最初の East Gathering 以来、アジアのデザイン交流に貢献する。SISE 香港フラッグシップ店、中国の大手デベロッパー-万科グループプロジェクトなど活動はアジアに広がる。Asia Pacific Interior Design Award 銅賞。
<http://www.studioabbt.com>



Yashu Ito / インテリアデザイナー
East Gathering の発起人のひとり。ゾウに生まれ、京大工学部建築学科の研究生として留学。
帰国し、同志社大学大学院、再度来日し、京都工芸繊維大学建築学科にて博士學位取得。
2007年ゾウでリム・ヌー・デザインスタジオを設立。翻訳者に原研喜の「笑ける建築」など。
共著に「ゼロ年代11人のデザイン作品」(日本)。
Ten Emerging Korean Architects/ 韓国で期待される若手10名の建築デザイナーに選出される。
<http://www.itsatohstudio.com>



モデレーター 滝子佳英 / インテリアデザイナー・建築家
1972年神戸生まれ。2003年カナバンススタジオ設立。
ショッピングセンター横浜センタービル再設計、星野リゾートのインテリアデザインなど多岐に活動。
2011年、建築情報誌のインテリアデザイン選考に「コムカヤカヤのインテリアデザイン」(建築情報誌 vol.1 100%)
を授けられ、現在(建築情報誌)に「1000インテリアアワード」(ショッピング)の監修、を連載中。



壁面緑化システム

アクアヴェール

AQUA VERT

ヒートアイランド現象に象徴される都市の環境問題が顕在化する中、緑が持つ気象緩和機能や生態系維持機能に期待が高まっています。

環境負荷の高い街並みの中にも、環境性能の高い緑化システムが必要であると考えから、環境工学と自然科学が融合した緑化基盤の追求により、建物のファサードと植物が一体となった緑の被覆工法を開発しました。

ユニット化されたシステムは、気象条件や生態環境に応じた壁面の環境設定や植物選定を可能にし、水と光を活用した光合成のエネルギーによって緑が持つ力を最大化できるように設計されています。

アクアヴェールは、低炭素社会のサステイナブルな環境循環装置として次世代の都市環境を牽引し、都市で生きる人々に潤いと安らぎを提供します。

 **昭和フロント株式会社**
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-7
TEL. (03)3293-6737 URL. <http://www.sfn.co.jp>



空光 彩工

MOKKOU-SAIKU

天然木仕様 薄型LED発光サイン

天然素材を使用することにより従来のアクリル製 Bright Lit Letter とは異なる表情を実現したサイン。



「靴作りのこと」。



木佐木愛 キサキメグム

靴作りをしています。左右それぞれの足を計測して作るフルオーダーの靴屋です。小さな工房で木型から仕上げまで一人でやります。

1日中誰とも話さないような日も多々ありますが、作業に集中して入り込めれば、沢山の会話をしたような気分になる事もあります。作る事で手が考えられた日です。やるべき作業にずっと入り込めない日もあります。そんな日は、別の作業から自分自身を誘導していく戦いもあります。靴作りには、数多くの工程があるので、そんなことも飽きずにいられる理由の一つかな...と思います。何にしろ、やった分しか進まないことは明らかなので、楽しんで作る事が結果的に、効率もよくアイデアも循環し、それは作ったものに表れて、

お客様にも伝わるはず。そんなことを考えながら、アタマと手と、驚がる物づくりを目指し、コンコントントンやっている毎日です。

「何故靴だったの？」とよく聞かれます。何故だろう?...、考えてみました。

小さい頃から靴は好きでした。幼稚園生に初めて買ってもらったエナメルのお出かけ靴は未だにキラキラと思い出の中で光っているし、小学校の遠足前日に、靴とソックスの組み合わせに悩んで眠れなくなったことも鮮やかに覚えています。大学生になったらバイト代を貯めてはヨーロッパ旅行、イタリアでは靴を買いきまり、同行した友人にあきれられるのではと、見つからないようトランクに巧く隠すのに苦戦しました。スペインの小さな靴の博物館で、昔宮廷で履かれていた、明らかに手作業の痕跡がある美しい

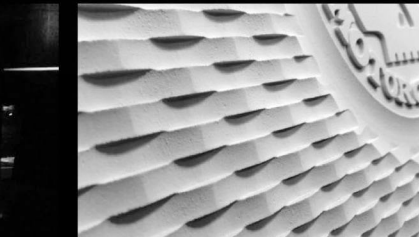
Other techniques and products.



【Bright Lit Letter】
KITE 3xの5F ばいこ 3つ丸東京様



【LED Partition】
北海道旭川市プラネットビル6F 洲(ツル)様



【Geometric Wall】

特注デザイン切削加工ボード、
アクリル板 (不織 1m~12mm)

薄型LED発光樹脂発光文字。
最小文字厚 30mm
発光面最小突端 2mm

薄光板/パーテーション。
アクリル製。



い布製の靴に圧倒されたのも覚えています。そんな靴のファッションとしての華やかさに惹かれる一方で、実際に自分が日中快適に過ごせる靴はほんの1、2足。おしゃべりしてお出掛けしても帰る頃には足が痛くて楽しさも半減するような靴ライフ。「私は一生こんな思いをして過ごさなきゃならないのか...?」。

婦りの電車で痛い足をうらめしく思ったことは数知れず。好きなのに伝わらない、好きなのに相手は好いてくれない、そんな感じ。靴に自分を無理して合わせることに、マークが染み付いた。そしてそれは靴に対してだけではなく、自分、と自分を取り巻くもの、社会、とのかかわり方全般に対する、マークと時期を同じくしていた気もします。自分というカタチを肯定して生きていくには?という簡単に答えの出ない疑問を心の奥に抱えていたような、要するに、何を生きていこう?。

そんな流れで、作る事は元からやりたかったタイミングが繋がったもあり、靴作りで生きて行くことは、学校を見つけた時点ですぐ決まりました。その頃はまだネットで検索なんてなかったから、今は違って学校が見つかっただけで、「運命のめぐり合わせ!」なんて高揚感も後押しして、

学校に入り、実習靴が出来上がる工程を知るのは楽しかったのですが、知るほどに、知らない事が増えていく、というジレンマが、むしろ靴との長い関係のスタートだった気がします。「何故靴だったのか?」のきっかけはもちろん、好きだったから、ですが、それよりも「何故続けたのか?」という問いが、今やっていることの答えに繋がると感じています。

靴を作りたいなら、その技術を習得しなければならないのは当然ですが、それまで、靴の製法というものがこんなに多様なものだと知らなかった。靴のカタチをしているものが、どういう素材、構造、で出来ているのか? 芯材一つとっても多様にあるのだから、まして一足出来上がるまでの細かな材料の組み合わせは幾通りにもなる。技法も多様であり、それら全ては最終的に作る際のスピード=コストに関わってくる。大量生産だからこそ出来ることもある。

では、手で作ることは意味は一体なんなのか? 何日もかけて、ようやく一足作ることは意味は? 製法の意味は? 作る事は楽しい、

でもその楽しさが自己満足で終わらないようなものを作るようにならないと続けられない...。そして、木型、という重要な問題にも当たるわけですが、人の足は100人いけば100通り、実際には一人2本の足とすれば200通りのカタチ、になります。びっくりするくらい、1人として同じ足の人はいません...。ということ、は、そもそも既製靴というのは「誰にも合わない靴」になる、もし手でしか出来ない事があるとなれば、「誰一人が満足している靴」を作ること、その為には木型を削らなければならない。これは靴作りの技術とはまた別の話ですので、木型を学ぶのにまた時間を要することになりました。

結局、ハンドソーウェルトの技法も、木型も、本場イギリスのビスポー技術を日本に持ち帰ってきてくれた師匠にいいタイミングで出会えたことで学ぶ機会を得て、自身の方向性の幅も広がりました。

そして、そうこうしているうちに靴作りを始めて15年が経ち、製法も今では用途によって色々使い分けています。「~でなければ



ばならない」ということはない、自分自身が楽しむことで、結果誰かが喜んでくれたら最高!「手だから作れるもの。」を追求して物づくりそのものについて考えていきたいと思う。履いて楽しくなるような靴を作りたい、という思いは変わらない。

でも、フルオーダーに関しては...。せっかく木型から手回線をかけて作るのであれば、きちんと作りたい、楽しいの買はお客様が履いて歩いて初めて決まる事だと思うのです。

よく「フルオーダーは数値が高いから、大体合う感じでもっと安く作れば...?」と言われるのですが、「大体合う」って、何なのか? ちょっと気持ち悪くてムズムズするのです。これもまだアタマが固まって事なのか? と自問自答したりもしますが、だって「大体合う」ってすごく平面的な考え方なのです。要するに「幅が合う」って事ですよね? でも足は立体で幅の角度も高さも違う、踵までの深さ長さも角度も違う、しかも右も左も違う、足背も違う、それらが全て曲線で繋がっている。これを「大体合わせる」って...?

世の中の「オーダー靴」の大半はそれだと思います。そうでなく、木型をきちんと足に合わせて作るならばそれなり価格にな

っているはず。そして製法もきちんと説明してあるはず。木型の作り方と製法はこれまた繋がっている事なので。まだまだ、オーダー靴ってそもそも何なのか、認知されていない感覚があります。だからこそ、やっぱりオーダー靴をやる以上目指すものは、大体合う、ものではなく、きちんと合うものでないと、通好意を作っているような気になる。

とても難しいことです。でも続けて行くしかない、続けさせてもらえるような物を作って、少しずつ広めていくしかない。そういう靴があるという価値観を少しでも多く知っていただけたらな...。と思います。



Ordermade shoes & shoemaking school
kisakishoes 木型木業 (キサクメクム)
2012年、長い冬を下活動に終止符を打ち、地元である横浜市 青葉台に靴工房を立ち上げる。
注文靴のシリアルズと、もともとあったのしい靴作り、の合体を目指して日々メクモクモク中。
5月に3回目となる創業、「キサクシューズのサンダルズ」@代官山 無期型ギャラリー 開催予定
ホームページ: <http://www.kisakishoes.com>

船町5丁目 華飾市場 新高島駅 徒歩1分!

国内最大級 装飾部材の品揃え! 1F~6Fの広大なフロア

4F プロ用部材 多数展示!

5F 施工ブース

所在地: 〒175-0082 東京都板橋区高島平 6-2-5
営業時間: AM9:00 ~ PM5:00
お問合せ: ☎ 0120-080-384

MONSTER WOOD

New York Crafts

Comfort One

株式会社 望遠 / B&O CO.

愛知県名古屋市千区瑞穂町 5-2 TEL.052-653-3795

パブリックは、高空間のあらゆるニーズに2つの家具ブランドでお応えしています。

CRÉS + arti

www.public-grp.com www.arti-tokyo.com

パブリック株式会社

愛知県名古屋市千区瑞穂町 5-2 TEL.052-653-3795

東京ショールーム

お待ちしております。

TEL: 03-6300-4341

TOKYO SHOWROOM 2014.4 New Open (完全予約制)

〒151-0061 渋谷区初台 1-29-13 ベルエールコート 101

SAKAI CO. LTD.

EXHIBITION・ギャラリー・ウェブサイト情報

「森正洋輝/喜びを感じるデザイン」
期間 2014年4月26日(土)～5月11日(日) 入場無料
会場 キャラリーストップ&カフェ コーネースアイ
金沢市武蔵町4-2 〒920-0895 Tel.076-204-8431
時間 11:00～18:00 月曜・火曜定休(祝祭日は営業)

「悠久美子+東京藝術大学 悠久美子研究室 展 ～小さな風景からの学び～」
期間 2014年4月18日(金)～6月21日(土) 入場無料
会場 YTOギャラリー 館
東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル3F Tel.03-3402-1010
時間 11:00～18:00(金曜日は19:00まで) 日曜・月曜・祝日休館日

アンディ・ウォーホル展「永遠の15分」
期間 2014年2月1日(土)～5月6日(火)
会場 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)
東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53F Tel.03-5777-8600
時間 10:00～22:00(火曜日のみ17:00まで) 会期中無休
※ただし2月11日(火・祝)、4月29日(火・祝)、5月6日(火・休)は22:00まで
※4月19日(土)は「六本木アートナイト2014」開催に伴い「閉館6:00まで」
※入館は閉館時間の30分前まで

「驚くべきリアル」展
スペイン、ラテンアメリカの現代アート・MUSACコレクション
期間 2014年2月15日(土)～5月11日(日)
会場 東京都現代美術館 企画展示室1F、ホワイエ
東京都江東区三好4-1-1 Tel.03-6245-4111(代表)
時間 10:00～18:00(入場は17:30まで) 月曜日(5/5は閉館)、5/7休館日

「手探りのリアリズム」～「村岡三郎の方へ」
村岡三郎、アンセルム・キーファー、ヨーゼフ・ボイス、若林寛、アルベルト・フッリなど

「かわりゆくリアル」
横山節美、トニー・クラッグ、イウ・クライン、フランシス・ヘーコン、アルベルト・ジャコメッティ、高松次郎
など
期間 2014年1月7日(火)～4月6日(日)
会場 豊田市民館
愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1 Tel.0565-34-6610
時間 10:00～17:30(入場は午後5時まで) 休館日:月曜日

ウェブサイト情報
ジャパンデザインネット <http://www.japandesign.net.jp/>
目黒Shopbiz <http://www.shopbiz.jp/>

SHOKANKYO 81 | March 2014 |

Japanese Commercial environment Designers Association (JCD)

創刊誌号
2014年2月30日発行 発行：(社)日本商業環境デザイン協会 〒101-0021 東京都千代田区東神田2-1-6 神田会館101
tel.03-5207-6702 fax.03-5207-6708 <http://www.jcd.or.jp/> e-mail:jcd@jcd.or.jp
企画・編集・制作/JCD本部コミュニケーション委員会(委員長:高川正之 編集長:近川幹太 編集委員:宮原英幸子、木村真香、渡川 誠、水谷真由) 監修・デザイン:武吉編集/古川幹太 頒布価格 ¥500

ES | NOMURA



まだまだ、もっと。空間は活きてくる。
Prosperity Creator
NOMURA
<http://www.nomurakougei.co.jp>

株式会社 乃村工藝社

本社：東京都港区台場2-3-4 〒135-8622 Tel：03-5962-1171（代表）
営業拠点：札幌・仙台・名古屋・大阪・岡山・広島・福岡・京都・東京・上野・シンガポール・ミラノ・ニューヨーク

顧客課題づくりの調査・コンサルティング、企画・デザイン、設計、制作施工ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

石のソリューションカンパニー

石の厚さを2ミリまで薄切りにできる技術が我が社の強みです。
石材にタイル、ハニカム、ガラス、FRPなどを組み合わせた複合板で石材だけでは解決できないお客様の課題を解決する「石のソリューションカンパニー」を目指します。



THU タイル (FRP+ABS樹脂型ハニカム)

石材に関することは、何でもご相談下さい。

株式会社 ESG JAPAN
〒101-0031 東京都千代田区東神田2-7-1 (広都ミヤケビル6F) TEL.03-5809-2815 FAX.03-5809-2816
JAPAN <http://www.esgjapan.com>